

平成 26 年度那覇市民意識調査報告書について

(4/15 記者会見資料)

平成 27 年 3 月 企画調整課

I. 調査の目的

日常生活に関する市民意識の把握と、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度を把握・分析し、今後の市政運営に反映させるための参考資料とする。

また、第 4 次那覇市総合計画の施策ごとに設定された進捗管理指標について、本調査にて実施するとされているものを引き続き調査実施した。

II. 調査項目（分岐質問含め 62 問）

(1) 基本項目（5 項目）

性別、年代、居住地区、居住年数など

(2) 日常生活等に関する意識調査（15 項目）

住み心地、自治会、協働、子育て支援など

(3) 第 4 次那覇市総合計画の指標調査（20 項目）

まちづくり活動に参加している市民の割合、市政運営に対する満足度、子育て施策に対する満足度、地球環境保護のための実践項目数など

(4) 政策に対する満足度調査（25 項目）

協働によるまちづくり、健康づくりと地域医療の充実、地域の支えあい、地球環境への配慮、子どもの視点に立った環境づくりなど

III. 調査の実施結果（郵送法にて実施）

(1) 調査票送付実数 5,000 人

対象：本市の男女比率、各年代比率、各地区（本庁、真和志、小禄、首里）の人口比率に応じて等間隔により抽出した、満 20 歳以上の市民

(2) 回収実数 1,422 人

(3) 回収率 28.4%

(4) 調査期間 平成 26 年 11 月 15 日～11 月 30 日（16 日間）

(5) 集計 コンピュータによる単純集計・基本項目とのクロス集計

IV. 調査結果の概要

報告書 P19～P28（調査全体の総括） P29 以降は各調査の詳細

（１）日常生活等に関する意識調査結果

新規質問や主要項目等の結果に注目

①那覇市の住み心地（質問 7）

「住みよい」と回答した市民の割合が増加

- ・那覇市が「非常に住みよい」と感じている市民の割合 21.3%（過去最高）

※調査結果の詳細（報告書 P36）

②地域（小学校区）における課題（質問 9）

年代毎・地区毎に課題の違いが確認された

- ・20代及び50代以上では「地域の美化・清掃」、30代では「子育てに対する支援」、40代では「交通安全」の課題認識が高い。
- ・本庁地区・真和志地区・小禄地区では「地域の美化・清掃」、首里地区では「交通安全」の課題認識が高く、各地区の実情に応じた対応を検討する必要がある。

※調査結果の詳細（報告書 P44～）

③市政への関心（質問 10）

「関心がある」と回答した市民の割合が増加

- ・「非常に関心がある」と「まあ関心がある」の“関心がある”市民の合計は、68.1%（前回合計 62.2%）

※調査結果の詳細（報告書 P47～）

④議会に求めること（質問 14）

「地域問題や市民相談への対応」や「議員定数や報酬などの見直し」と回答した市民の割合が高い

- ・「地域問題や市民相談への対応」と回答した市民が 700 人、「議員定数や報酬などの見直し」市民は 495 人（新規質問）

※調査結果の詳細（報告書 P56～）

- ⑤ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について
(質問 17)

前回調査より「反対」が増加、「賛成」が減少。男女平等意識の浸透を確認

・賛成 33.1%、反対 47.3% (前回 (H24) は賛成 34.1%、反対 46.3%)

※調査結果の詳細 (報告書 P68～)

- ⑥ 誰でも快適に移動できるまちづくり (質問 20)

「歩きやすい歩道を整備すること」が重要と回答した市民の割合が高い

・「歩きやすい歩道を整備する」と回答した市民が 843 人、「バスを利用しやすくする」が 353 人、「路面電車等の新しい交通手段を導入する」が 349 人。

※調査結果の詳細 (報告書 P75～)

- ⑦ 学校を「地域コミュニティの拠点」とすること (質問 21、21-1)

「賛成」と回答した市民が約 7 割

・学校を「地域コミュニティの拠点」とすることに「賛成」と「どちらかといえば賛成」の“賛成”している市民の合計は、69.9% (新規質問)

・学校にあったら良いと考える施設として「放課後児童クラブ (学童)」と回答した市民が 516 人、「高齢者支援に関する事業(ふれあいデイサービス等)」が 481 人。

※調査結果の詳細 (報告書 P78～)

- ⑧ 市民の幸福度 (質問 23)

10 点満点中 6.39 点 (前回 6.05)

・平成 23 年度国民生活選好度調査 (内閣府：全国調査) 全国平均 6.41

那覇市の平均値と比較すると、性別では女性、年代では 40 代、70 代以上で全国平均値を上回っている。属性によって平均値にバラつきが見られる。

※調査結果の詳細 (報告書 P84～)

⑨ 市街地活性化について（質問 24）

中心市街地商店街における市民離れが前回調査より進行

- ・「全く行かない」と「年1～2回」の“ほとんど行かない”市民の合計は、
国際通りで 52.5% マチグラーで 65.5%
(前回 H24 :国際通り 48.6%、マチグラー60.6%)

※調査結果の詳細（報告書 P 87～）

⑩ 認定こども園（質問 28）

「賛成」と回答した市民が 8 割近い

- ・「認定こども園」の普及について「賛成」と「どちらかといえば賛成」の“賛成”
している市民の合計は、77.3%（新規質問）

※調査結果の詳細（報告書 P101～）

⑪ 介護サービスと介護保険料のバランス（質問 30）

「現状維持」と回答した市民が約 6 割

- ・「介護サービスも介護保険料も現状維持がよい」と回答した市民が 59.3%、
「介護サービスの充実を優先してほしいので介護保険料が上がってもよい」
が 17.8%、
「介護サービスが低下してもよいので介護保険料を下げるべき」が 14.6%。

※調査結果の詳細（報告書 P105～）

（2）第4次那覇市総合計画の指標調査の調査結果

当該調査で確認した、2012年（総合計画の中間年）における目標値
「めざそう値」（別紙参照）の達成状況は、各指標で明暗。

- ① 「わからない」と「無回答」を含めた総数の比率で達成したのは、
20項目中 5項目（25%）
- ② 「わからない」と「無回答」を除いた場合で達成したのは、20項
目中 12項目（60%）

※調査結果の詳細（報告書 P123～P172）

(3) 那覇市の政策に対する満足度・重要度調査の調査結果

- ① 第4次総合計画で掲げた25の政策については、市民の評価を鮮明に現すため、全政策の得たポイントを集計した平均値との相対評価を実施。
- ② 各政策の重要度については、前回調査（H24）から大きな変動はないと判断し、今回調査で実施せず、前回調査結果を使用。
- ③ 前回と比較して、満足度の一人当たり平均評価点は上昇し、政策25項目のうち17項目で満足度が高まっていることから、本市の政策展開が受け入れられているものと評価できる。

・満足度平均評価点 2.38（H24） ⇒ 2.42（H26）

※調査結果の詳細（報告書 P173～P202）